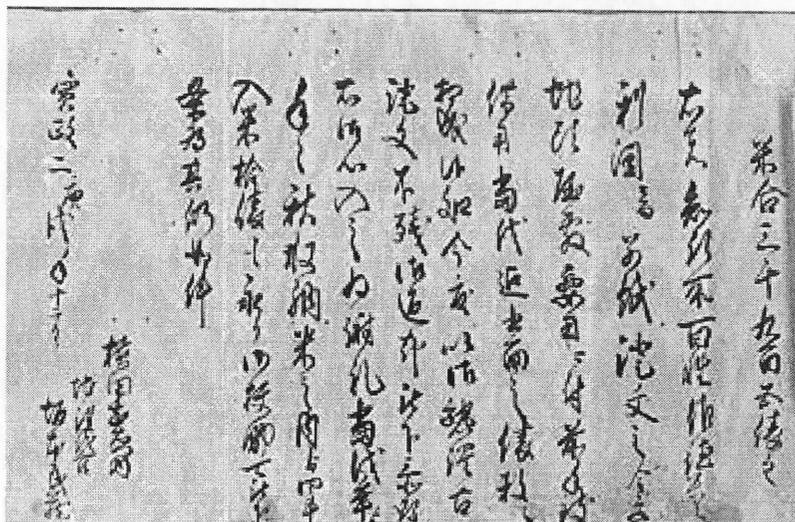


じやくだいかん かつやく
地役代官としての活躍



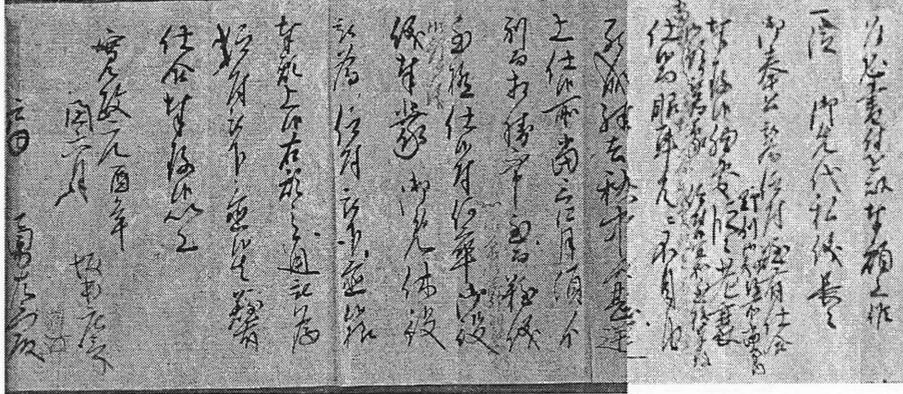
【解説】

^{かんえい}寛永16年(1639)、^{けつかむら}毛塚村は^{よこたのぶとし}横田述松と^{よこたたねまつ}横田胤松の2名による
共同支配となり、その際、実務を担当する^{じやくだいかん}地役代官という職が設けられ、
坂本家が代々東の地役代官に任命されました。

これは、坂本家第6代当主の^{たみぞう}民蔵が^{しゃっきんしょうもん}借金証文返却に関し、
地役代官として出した文書です。

【坂本家文書356】〔借用金古証文不残返却被下候二付謝礼方条書〕

じやくだいかんさかもとしょうざぶろう じしよくねがい
地役代官坂本庄三郎の辞職願



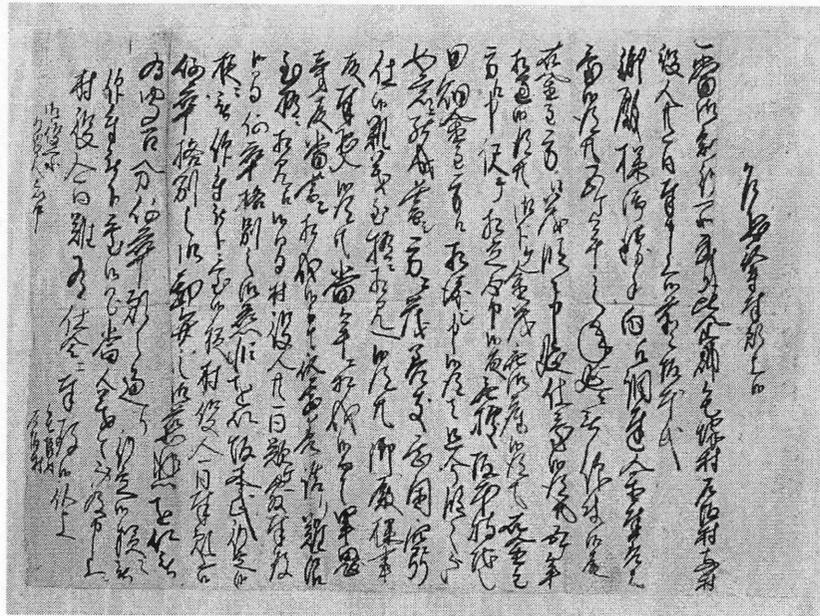
【解説】

坂本家は、代々地役代官として毛塚村の村政に貢献してきました。

この文書は、坂本家第5代当主庄三郎が老衰を理由として提出した、地役代官辞職願の下書きです。

【坂本家文書340】乍恐書付を以奉願上候（老衰二付御役御免・・・）

じやくだいかんさかもとういち こんきゆう
地役代官坂本東市の困窮



【解説】

とういち こんきゆう
坂本家第6代当主東市は、領主横田氏からの御用金調達に
あたり、自ら多額の借金をしましたが、領主から返金がなく、借用先
からの督促に追われ困窮しました。

けつか いしざか
これは、困窮をみかねた毛塚・石坂両村の役人が、坂本氏の
きゆうさい うった
救済を訴えた文書です。

【坂本家文書3149】覚（乍恐以書付奉願上候（御殿様御勝手向調達金・・・）

さかもとはんべえ こよみ
坂本半兵衛が作った暦



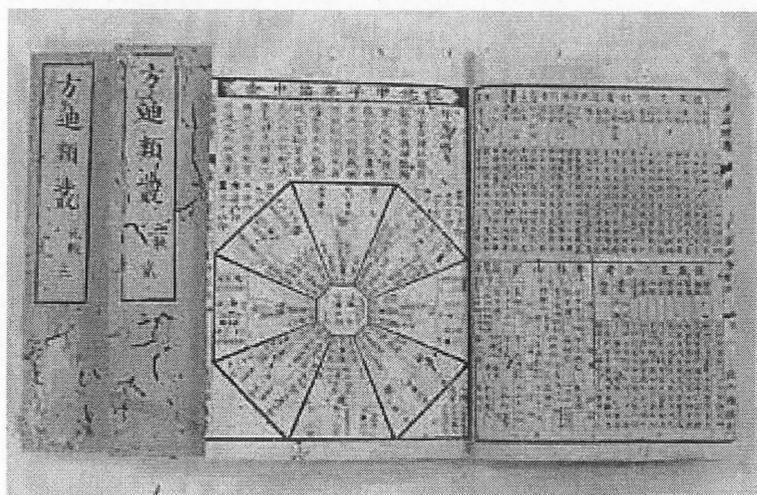
【解説】

坂本家第8代当主半兵衛は、坂本家に養子として入る前から、^{ようし}陰陽師 ^{おんみょうじ}として広く信望を集めており、当主となった後も、占いの^{いらい}依頼を受けるだけでなく、占いの書物や ^{こよみ}暦、^{おふだ}御札などを作って希望者に ^{さず}授けていました。

これは、^{どうはく}「道博」の名で半兵衛が作製した暦です。

【坂本家文書 3413】方迪查覧

さかもとはんべえ あらわ
坂本半兵衛が著した占い書

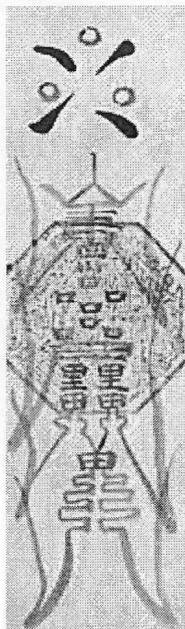


【解説】

さかもとはんべえ あらわ ほうてきるいそう
坂本半兵衛が著した占い書『方迪類叢』です。残念ながら、
坂本家文書の中には伝えられていませんが、当館に寄託されている
旧神泉村の浅見家文書に残されており、実物を見ることができます。

【浅見家文書2281～2283】方迪類叢

うらな おふだ
占いの御札

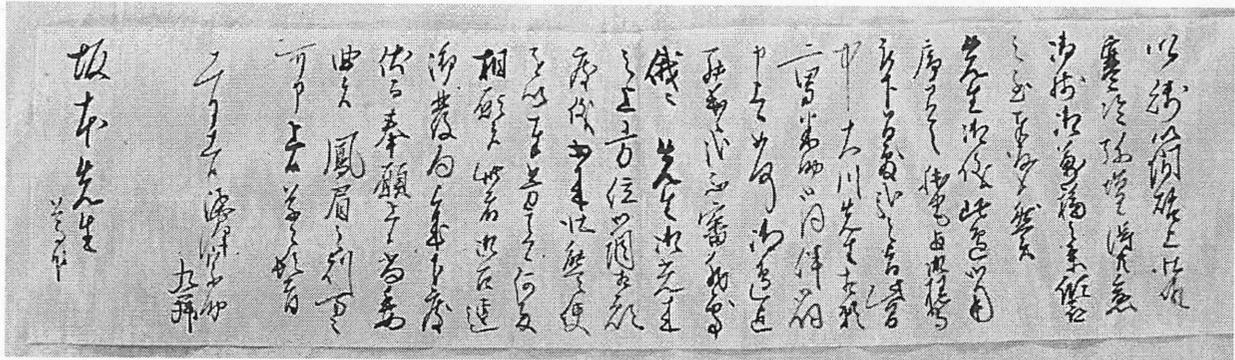


【解説】

おんみょうどう くり やなぎ くい がん
陰陽道では、栗や柳で作った杭を打って願をかけることが
ありました。これは、栗の木で作った杭に貼るための御札で、
おそらく、さかもとはんべえ いらい くぼ
坂本半兵衛が占いの依頼人に配っていたものと思われます。

【坂本家文書3220】神符（栗木貼付用）

しぶさわけ うらな いらいじょう
渋沢家からの占い依頼状

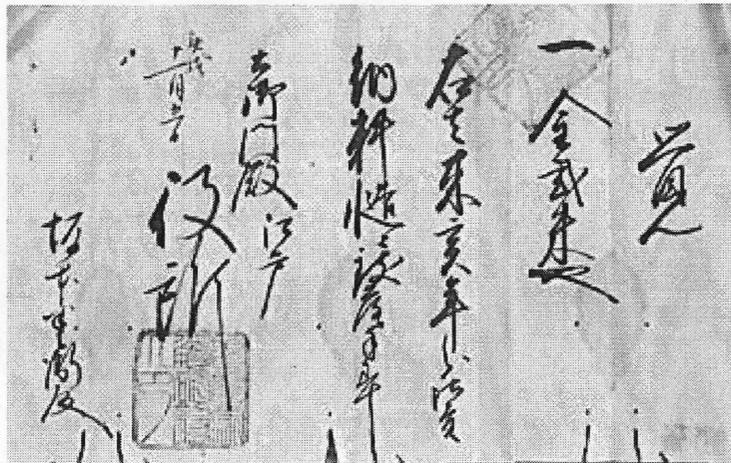


【解説】

坂本家文書には、多くの占いの依頼状と、その返書が残されています。
これは、^{しぶさわえいち} 渋沢栄一 ^{おじ} の伯父にあたる ^{ちあらいま} 血洗島 (深谷市) の ^{そうすけ} 渋沢家宗助が、
^{さかもとはんべえ} 坂本半兵衛 ^{ほうい} にあてて、方位占いのために来てほしいと依頼した手紙です。

【坂本家文書 2859】 [方位御調相願度儀出来仕・・・]

おんみょうどう そうけつちみかどけ とうのう
陰陽道宗家土御門家への貢納



【解説】

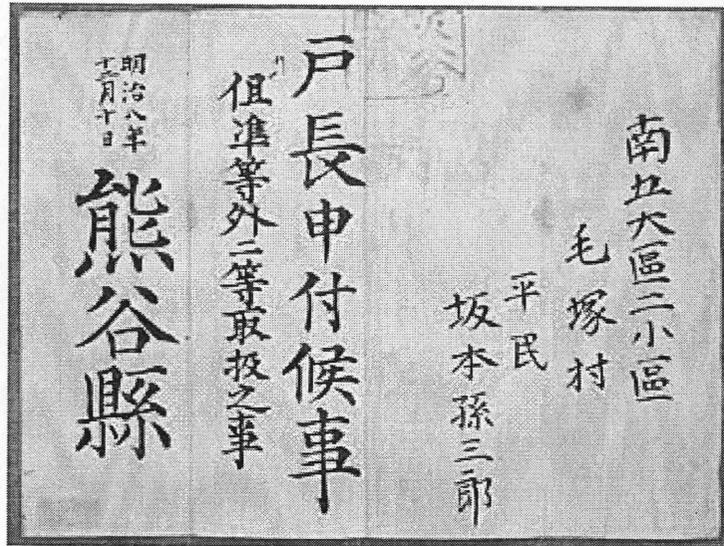
えどじだい おんみょうどう つちみかどけ
江戸時代、陰陽道は土御門家を取りしきっており、全国の
おんみょうじ とうのうりょう おさ
陰陽師は、毎年土御門家へ貢納料(税金)を納めることに
なっていました。

これは、土御門家の江戸役所が、坂本半兵衛に出した貢納料の
りょうしゅうしょ
領収書です。

かのえいぬ かえい
庚戌は、嘉永3年(1850)と思われます。

【坂本家文書900】覚(来亥年分貢納料落手二付)

こちょう さかもとまごさぶろう
戸長を命じられた坂本孫三郎



【解説】

めいじじだい けつかむら しながわけん にらやまけん いるまけん へ
明治時代になると、毛塚村は、品川県・蕪山県・入間県を経て、
くまがやけん ぞく
明治6年(1873)には熊谷県に属しました。

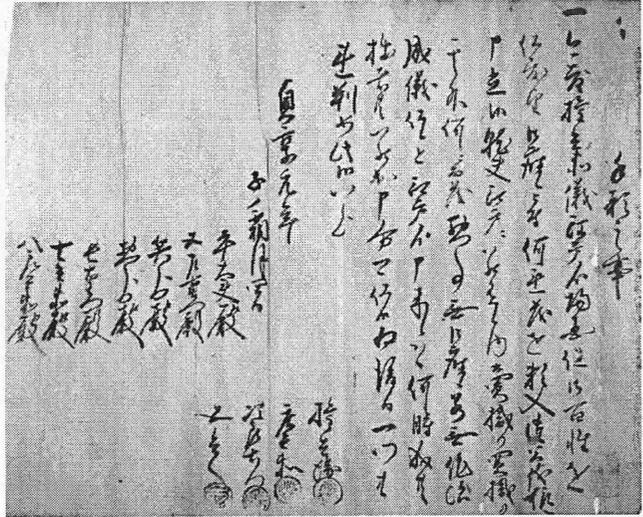
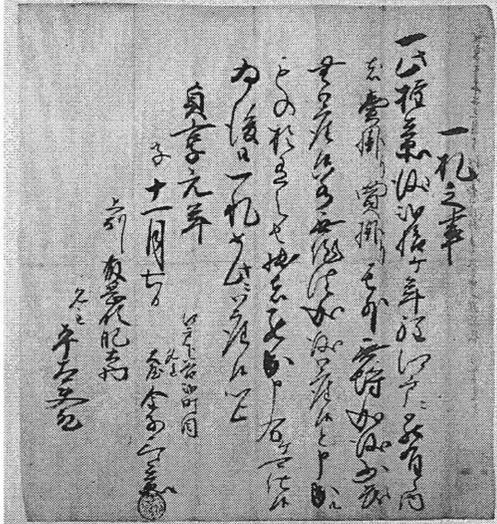
これは、坂本家第9代当主孫三郎が、熊谷県の南五大区二小区の
みなみごだいくにしょうく
戸長に任命された辞令です。
にんめい じれい

【坂本家文書563】熊谷県辞令（戸長申付候事）

江戸から肥土村に帰った高橋権兵衛

ひどむら

たかはしごんべえ



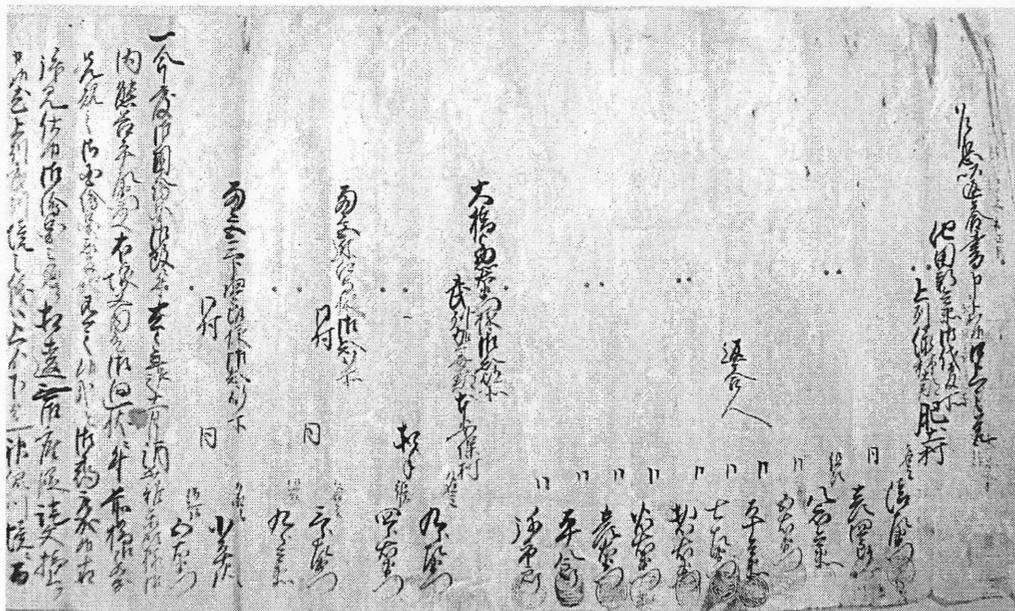
【解説】

高橋家第2代当主 権兵衛は、江戸の下谷で商売をしていましたが、貞享元年(1684)11月、肥土村に戻りました。

この2点の文書は、その時に村へ差し出されたもので、高橋家では「特別永々保存書類」として大切に扱われていました。

【高橋(周)家文書362・363】一札之事

こうずけ むさしくにざかい そうろん
上野・武蔵国 境の相論



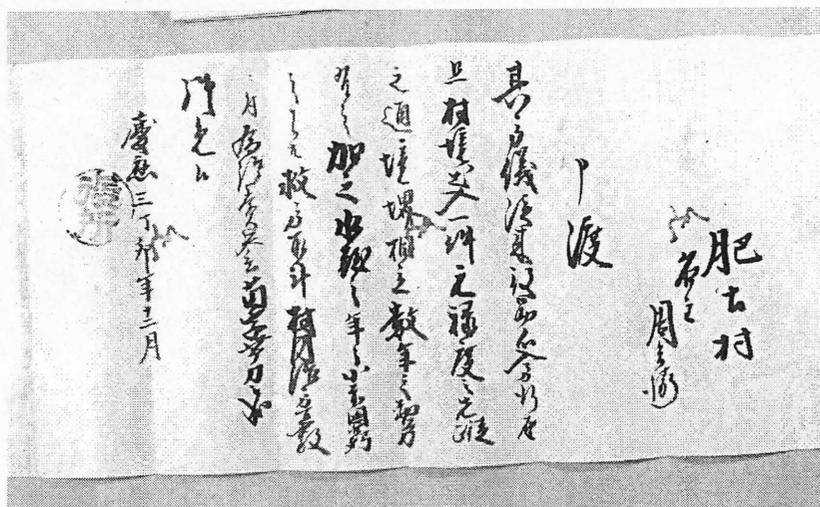
【解説】

こうずけ むさし くにざかい かなな
上野国と武蔵国の国境については、神流川の上流下流の川幅の違い
などから、上野国側の肥土村と、武蔵国側の本安保村の主張が異なってい
ました。

くにえず ばくふ
これは、国絵図の作成にあたり、肥土村が幕府へ意見を提出した文書です。

【高橋（周）家文書364】乍恐以返答書願上候口上之覚（国絵図改二付）

みょうじたいとう みと たかはししゅうべえ
苗字帯刀を認められた高橋周兵衛

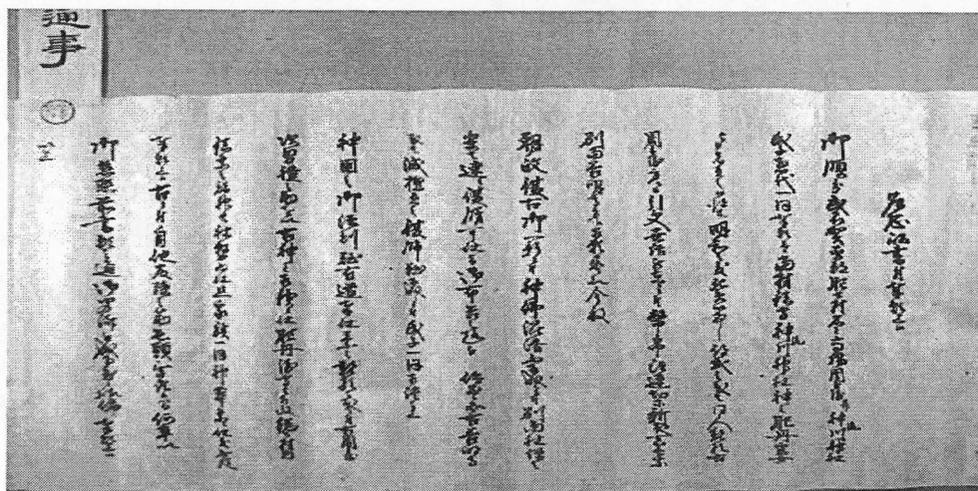


【解説】

けいおう くるりはん しゅうべえ
 慶応 3 年 (1867) 12 月、久留里藩が、高橋家第 8 代当主周兵衛に、
 みょうじたいとう みと こうずけ
 苗字帯刀を認めた文書です。これは、この年に上野国緑埜郡本郷村
 (群馬県藤岡市) との国境相論を解決するなどの功績によるものでした。

【高橋 (周) 家文書 164】申渡 (苗字帯刀被成御免)

かながわ しんしよく そうぞく れいのすけ
神流川神社の神 職を相続した礼之助



【解説】

ひどむら ちんじゅ かながわ ひろのだい べつとうぜんみようじ
肥土村の鎮 守・神流川神社(のちの広野大神社)の別当善明寺
に 住 職 がいなかったため、慶応 4 年(1868)、神社の氏子総代は
名主高橋周兵衛の次男礼之助の神職相続を 願 出ます。

これは、願出の文書に、くるとりはん みと むね もんごん
久留里藩岡役所が認める旨の文言を書き加え
て戻した文書です。

【高橋(周)家文書163】乍恐以書付奉願上候(周兵衛次男・・・)

けんかいぎいん かつやく たかはししゅうへい
 県会議員として活躍した高橋周平

【解説】

高橋家第9代当主 周平は、明治元年に名主となったあと、副戸長、戸長、丹荘村村会議員、丹荘村村長を経て、明治17年6月からは、埼玉県県会議員として活躍しました。

これは、3期目を務めた明治28年(1895)9月～同30年3月の補欠選挙日誌です。

【高橋(周)家文書2321】埼玉県議員補欠選挙日誌

たかはしもりへい しゅうぎいんぎいんせんきょかつどう
 高橋守平の衆議院議員選挙活動

【解説】

高橋家第10代当主 守平は、昭和3年(1928)2月の衆議院議員総選挙に立候補し、初当選しました。

これは、選挙期間中に秩父郡を遊説したときの記録で、演説会の内容や警察官の立会いなど、当時の選挙活動の様子がうかがえます。

【高橋(周)家文書2971】昭和参年弐月衆議院知音総選挙・・・

かいしんとう こだまし ぶれんごうかい けっせい
 改進黨児玉支部連合会の結成

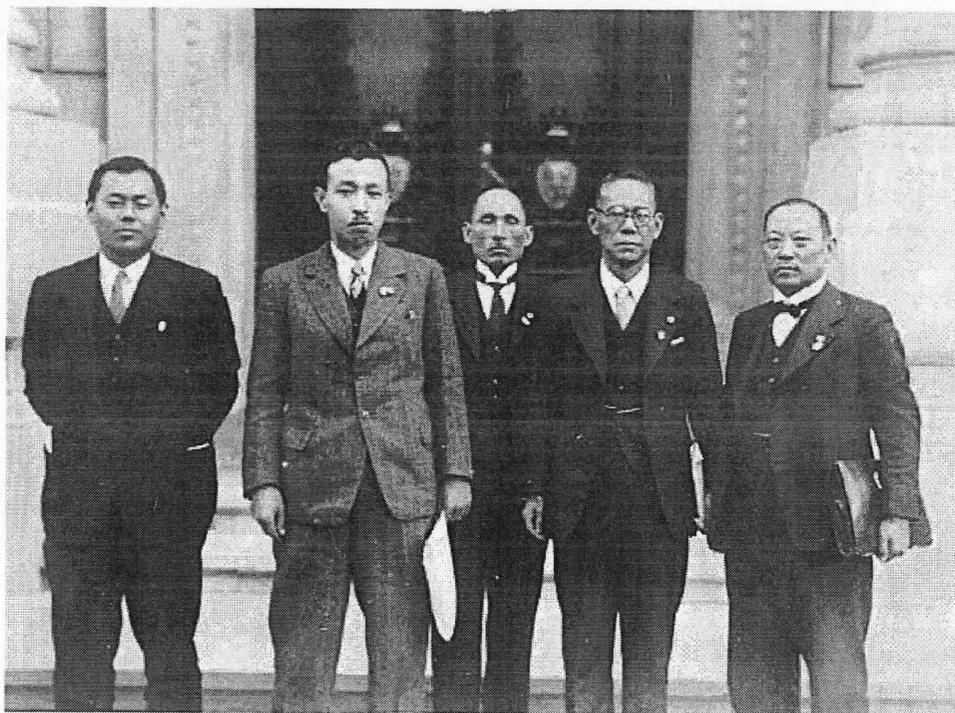
【解説】

昭和26年(1951)、高橋守平は公職追放を解除され、翌年吉田茂が率いる自由党の対抗勢力として結成された改進黨の県本部会長に就任しました。

これは、守平が地元の児玉郡に立ち上げた児玉支部連合会の結成者の連名帳です。

【高橋(周)家文書2322】改進黨児玉支部連合会結成連名帳

れっこくぎかいどうめいかいぎ さんれつ たかはしもりへい
列国議会同盟会議に参列した高橋守平



【解説】

しょうわ しゅうと かいさい れっこく
昭和6年(1931)、ルーマニアの首都ブカレストで開催された列国
ぎかいどうめいかいぎ さんれつ ぎいんだん きねんしゃしん
議会同盟会議に参列した議員団の記念写真で、向かって左から
たかはしもりへい
2人目が高橋守平です。

せいゆうかい りつけんみんせいかい しゅうぎいん
この会議には、政友会・立憲民政会から、各5人の衆議院
ぎいん はけん
議員が派遣されました。

【高橋（周）家文書4662】[列国議会同盟会議参列議員団記念写真]

たんしょう じゆうだいがく せつりつしゆ いしよ
丹 荘 自由大学の設立趣意書



【解説】

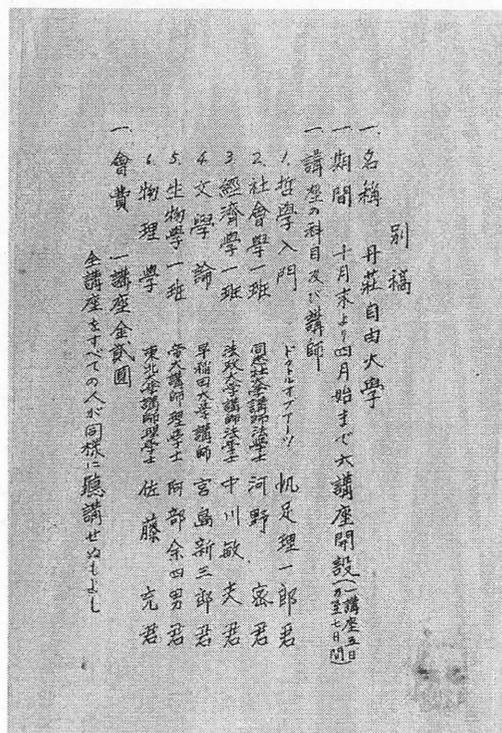
たかはしもりへい おんししもなかやさぶろう
大正 13 年(1924)10 月、高橋 守平が、恩師下 中弥三 郎の構想

をもとに村政を支える青年層の育成をめざして開設した、丹荘自由大学
せつりつしゆいしよ
の設立趣意書です。

じこきよういくうんどう
大正デモクラシー期の、地域の人々による自己教育運動として高く
ひょうか
評 価されています。

【高橋（周）家文書1300】趣意書（丹荘自由大学）

たんしょうじゆうだいがく かいせつこうざ 丹莊自由大学の開設講座



【解説】

たんしょうじゆうだいがく のうかんき こうし ちょうこう
 丹莊自由大学は、農閑期に講師を招き聴講するという形で
 行われました。内容は社会科学が中心で、受講者が聴講したい講座を
 せんたく
 選択しました。

これは、大正 13 年(1924)の講座の開催要項です。

【高橋(周)家文書 1299】[丹莊自由大学開設講座]